



## 少し昔の葬送と供養

町史編さん協力員 三浦 朋子(民俗担当)

お盆と言えば8月15日前後を思い浮かべる方が多いと思いますが、この時季は、明治5年(1872)に現在使われている太陽暦(新暦)への改暦が行われる前の、旧暦7月15日前後に当たります。そこで、今月の町史編さん室だよりでは、少し昔の葬送と供養について触れたいと思います。

人が亡くなると、通夜、葬式、埋葬といった葬送儀礼が行われます。現在は葬式と言えば遺影や位牌(いはい)などが安置された祭壇に手を合わせる事が思い浮かびますが、以前は葬式の中心儀礼として葬列が行われていました。葬列とは、近親者や人足で列を作り、死者を埋葬するために墓地へ運ぶことです。葬列には役割や順番があり、様々な葬具を持って列を作りました。

葬列の役割や順番については、地域や寺によって多少異なる部分がありますが、上向地区鳥越に残されている葬列の役割を記した巻物には、「先灯笼、青竜、黄竜、赤竜、白竜、黒竜、花籠、野花、花皿、芥子(からし)灯笼、盛物、燭台(しょくだい)、鍬(くわ)、茶湯(ちゃとう)、香炉、四花(しか)、枕食(まくらじき)、遺影、位牌、遺骨、天蓋(てんがい)、鉢金(はちがね)、総親類不残(のこらず)」と記載されています。

この順番についての決まりは厳しく、間違えると怒られることもあったと言います。葬列の中の五色の竜は五竜(御竜と書くこともある)と呼ばれ、竜頭を飾った棒が五色五本あり、猫の化け物から遺体もしくは遺骨の入った籠を守るためのものと言われていました。また、川上地区では、さらして作った前掛けを位牌持ちの人が着るため、そのときの余ったさらして作った後綱先綱を籠の前後に結んで導きまし

た。このように、地域によって違いはありますが、決められた役割と順番で列が作られ、死者を墓地へ運んでいきます。

葬列は、死者への道案内の意味から交差点を通るときには鉢金を鳴らし、死者の歳の数だけ一円玉や偽のお金を用意して撒(ま)きました。墓地に到着すると、墓地の入り口で参列者一人一人が左回りに三回ずつ回ってから墓地へ入ります。入り口で三回回るという行動は、死者が帰ってくることをないよう帰り道が分からないようにするためであったのかもしれない。

このような葬送儀礼を経て、故人は死者から先祖となります。そして、先祖になると、お盆の時期にあの世と呼ばれる浄土から生前過ごした場所へ帰ってきます。そこで、帰ってくる先祖をもてなすため、仏壇に盆棚を組んで、素麺(そうめん)、細目昆布、青りんご、灯笼や俵型等のお菓子(盆とうろう)などの供物を供えます。

また、神社や学校で盆踊りが行われ、笛を吹いて太鼓をたたき、唄を歌って踊り、先祖の霊を慰めました。そして、きゅうりで作った馬や茄子(なす)で作った牛を仏壇に供えて拝み、16日の朝に先祖を乗せる茄子の牛や供物を川へ流して、あの世へ帰る先祖を送りました。

民俗編の執筆に当たり、町内各地で地域調査を行い、様々なお話を聞かせていただきました。私は葬列を実際に見たことがなかったので、直接お話を聞いて当時の生活の様子を深く知り、人々の思いを感じることができました。調査にご協力いただいた皆様に改めて感謝申し上げます。

# サマージャンボ

(1等5億円・前後賞) **7億円**  
(各1億円合わせて)

# サマージャンボミニ

**1千万円**  
(1等1千万円)



この宝くじの収益金は市町村の明るく住みよいまちづくりに使われます。

各1枚 300円

**7月14日(火) 2種類同時発売!**

発売期間 **7/14(火)~8/14(金)**

広告 公益財団法人秋田県市町村振興協会

# 町営住宅 入居者募集

## 渡ノ羽ハイツA-2号(若者定住促進住宅)

- 【住 所】 小坂鉦山字渡ノ羽14-1
- 【家 賃】 35,000円(駐車場使用料別途)
- 【概 要】 木造2階建ての1階、1LDK
- 【入居資格】 単身入居可・所得下限あり  
世帯主が町外者で40歳未満
- 【申込締切】 7月22日(水)

### ■申込方法

「町営住宅入居申込書」に、家族全員分の「住民票」、「所得・課税・扶養証明書」、「滞納のない証明書」を添えて、建設班に申込みをしてください。

■お問い合わせ先 建設課建設班 (TEL29-3910)